

第11回死刑映画週間 2022年2月12日(土)～2月18日(金)

免田栄さんを知っていますか?

2020年12月5日、免田栄さんが95歳で亡くなった。

22歳のとき、強盗殺人罪容疑で逮捕された。

自白を強いられ、公判時にそれを否定したが受け入れられず、26歳のとき、最高裁で死刑が確定した。

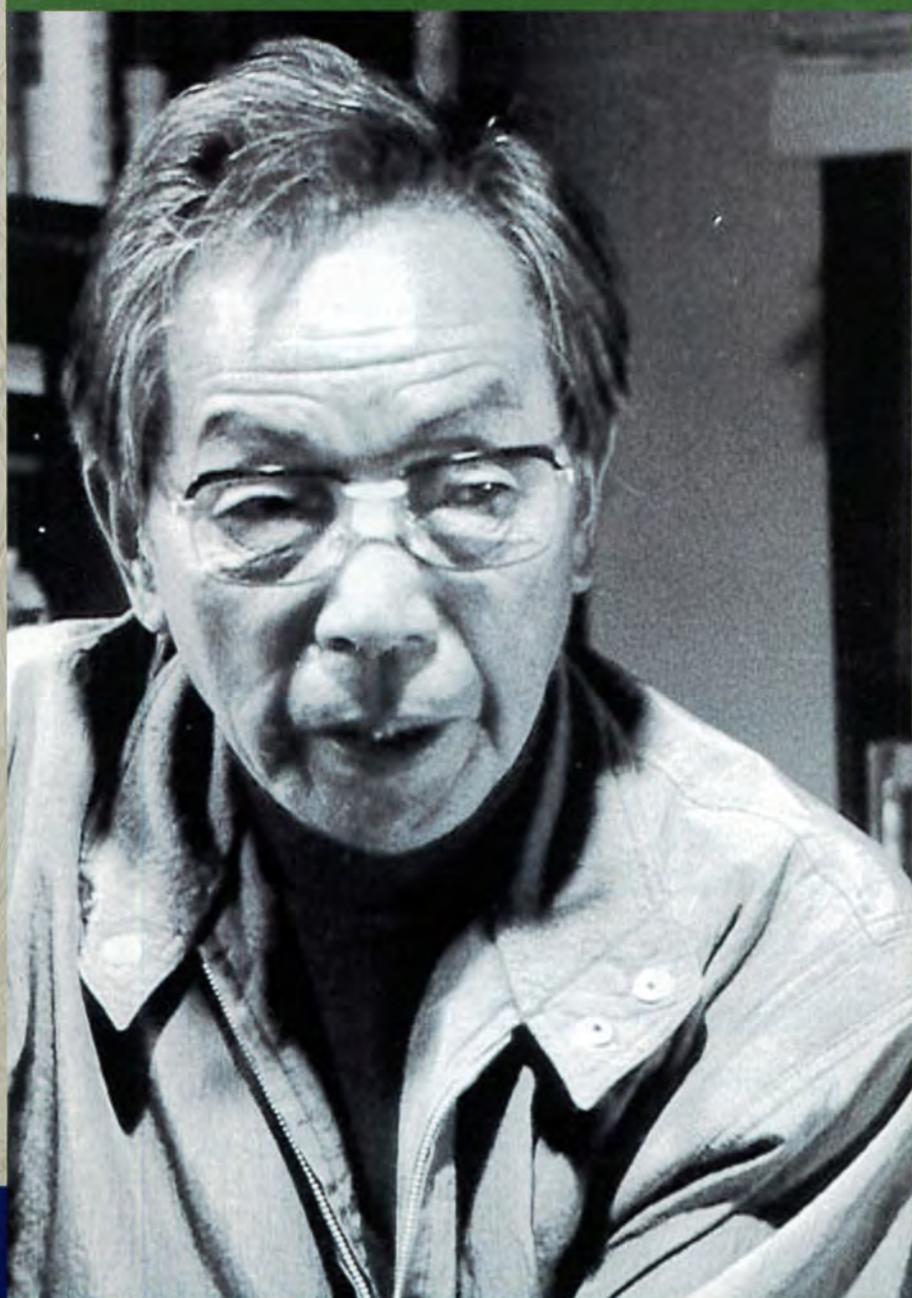
もとより身に覚えのない嫌疑、自力で再審請求を始め、やがて支援者も現れて、

6度目の再審請求が実って、無罪判決を得たのが57歳の時だった。

実に34年半の間、無実でありながら獄に閉じ込められていた。

今回上映する7作品のうち半数以上が「冤罪」をテーマとしている。

罪なきひとを死刑にする力を有する警察・検察・裁判所という司法の構造とは何なのかを考えたい。



第11回死刑映画週間 上映作品

映画 (監督+制作年) × 語る人 (一回限り、裏面参照)

『私は金正男を殺していない』(ライアン・ホワイト 2018) × 太田昌国

『狼をさがして』(キム・ミレ 2020) × 浴田由紀子

『裁き』(チャイタニヤ・タームハネー 2014) × 佐藤大介

『帝銀事件 大量殺人獄中三十二年の死刑囚』(森崎東 1980) × 山際永三

『女は二度決断する』(ファティ・アキン 2017) × 山口薫

『黒い司法』(デスティン・ダニエル・クレットン 2020) × 庄司香

『免田栄 獄中の生』(小池征人 1993) × 桜井昌司

渋谷 ユロスペース

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F

A 『私は金正男を殺していない』



2月12日(土) 11:00
15日(火) 16:30
17日(木) 14:30
18日(金) 19:00

© Backstory, LLC. All Rights Reserved.

2018年/米国/104分/DCP 監督=ライアン・ホワイ特
【物語】2017年。クアラルンプール国際空港で、北朝鮮の最高指導者 金正恩の実兄、金正男が殺された。暗殺者として捕まったのは、なんの訓練も受けていない20代の女性二人。彼女たちはいかかして実行犯に仕立てあげられたのか…。奇妙かつ大胆で、謎のベールに覆われた暗殺の真相に迫るドキュメンタリー。事件の背後に暗躍する北朝鮮の工作員、それに対して闘う弁護団、国際報道記者たちなどを通して、暗殺計画の全貌があらわされていく。彼女たちが実行犯となれば、死刑存置国マレーシアでは死刑となる。やがて事件はインドネシア政府、ベトナム政府を巻き込んでいくこととなる。

B 『狼をさがして』



2月12日(土) 13:30
13日(日) 19:00
14日(月) 13:30
16日(水) 11:00
17日(木) 17:00

© Gaam Pictures

2020年/韓国/74分/DCP
企画=藤井たけし キム・ミレ 撮影=パク・ホンヨル 編集=イ・ウンス 音楽=パク・ヒュンウ 出演=太田昌国、大道寺ちはる、池田浩士、浴田由紀子、荒井まり子、内田雅敏
【物語】1974年8月30日、東京・丸の内内の三菱重工本社ビルで時限爆弾が爆発した。8名の死者と約380名の負傷者が出た事件は日本社会を震撼させた。翌年 犯人として「東アジア反日武装戦線」は一斉逮捕された。凄惨な爆破事件ばかりが人々の記憶に残る一方、実際に彼らは何を考へ、何を変えようとしたのかは知られていない。時は過ぎ2000年代初頭、釜ヶ崎で日雇い労働者ら撮影していた韓国の映画監督キム・ミレが、一人の労働者から東アジア反日武装戦線の存在を知る。そして彼らの思想を辿るドキュメントを撮り始めた。高度経済成長の只中、日本に影を落とす帝国主義の間。彼らが抗していたものは何だったのか？ 彼らの言う「反日」とは？ 未解決の戦後史がそこに立ち現れる。

C 『裁き』



2月12日(土) 16:30
14日(月) 11:00
16日(水) 13:00
17日(木) 19:00

監督・脚本=チャイタニヤ・タムハネー

2014年/インド/116分/DCP
出演=ヴィーラー、サーティダル、ヴィヴェーク・ゴーンバル、ギータンジャリ・カルカニ、ブラディープ・ジョーシ
【物語】ある下水清掃人の死体が、マンバイのマンホールの中で発見された。年配た民謡歌手カンプレと逮捕立てたという容疑だった。不条理にも被告人となった彼の裁判が下級裁判所から始まる。理論的人権を尊重する若手弁護士、100年以上前の法律を持ち出して刑の確定を急ぐ検察官、何とか公正に事を運ぼうとする裁判官、偽証をする目撃者や無関心な被害者の未亡人と、宗教、言語、民族など、あらゆる面で異なる世界に身を置いている彼らの個人的な生活と、法廷の中で一つの裁きが多層に重なっていき…

第11回 死刑映画週間

免田栄さんを知っていますか?

上映作品

E 『女は二度決断する』



2月13日(日) 11:00
15日(火) 14:00
16日(水) 19:00
18日(金) 16:30

© 2017 bonbero international GmbH & Co. KG, Macassar Productions, Fathe Production, coronation international GmbH & Co. KG, Warner Bros. Entertainment GmbH

2017年/ドイツ/106分/DCP 監督・脚本=ファティア・アキン
出演=ダイアン・クルーガー、デニス・モント、ヨハネス・クリシュ
【物語】ドイツ、ハンブルク。カティアはトルコ系移民であるヌーリと結婚する。ある日、ヌーリの事務所の前で自爆に爆弾が爆発し、ヌーリとロコが犠牲になる。外国人同士の抗争を疑い警察は捜査を進めるが、在住外国人を狙った人種差別主義のドイツ人によるテロであることが判明する。容疑者は逮捕され裁判が始まるが、被害者であるにも関わらず、人種や前科をあげつらい、なかなか思うような結果の出ない裁判にカティアの心の傷は深まってゆく。愛する人、愛する子供と生きる。ささやかな幸せ。それが一瞬にして壊されてしまった。絶望の中、生きる気力を失いそうになるカティア。理不尽な暴力により、愛する家族を奪われたひとりの女性が、捜査や裁判の過程によって更に心を引き裂かれる。これ以上ない悲しみに耐えてきた決断とは…

F 『黒い司法』



2月13日(日) 13:30
14日(月) 15:30
15日(火) 11:00
18日(金) 13:30

©2019 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved.

2020年/米国/137分/DCP
原作=プライアン・スティープンソン 出演=マイケル・B・ジョーダン、ジェイミー・フォクソン、ブリー・ラーソン
【物語】プライアン・スティープンソンはハーバード大学のロースクールを卒業し、弁護士資格を取得した。1988年、プライアンの元にとんでもないニュースが飛び込んできた。ウォルター・マクミランという黒人男性が白人女性を殺した容疑で死刑判決を受けたのだが、彼が犯人であることを示す証拠は一つとして存在しなかった。それに拘わらず、検察側は誘導尋問などを駆使してウォルターを犯人に仕立て上げた。プライアンはウォルターの無実を必ずや証明すると心に誓い、その弁護を買って出た。当初、ウォルターは「大学出のインテリ先生に差別の何が分かるのか」などと頑なな態度を取るばかりであったが、プライアンの奮闘ぶりを眺めているうちに、彼に心を開くようになっていく。そして裁判は始まるのだが…

G 『免田栄 獄中の生』



2月13日(日) 17:00
15日(火) 19:00
18日(金) 11:00

©1993SIGLO

監督=小池征人

1993年/日本/88分/DCP
撮影=清水良雄、録音=滝澤修、久保田幸雄、音楽=坂田明、出演=免田栄
【物語】「死刑台からの生還者」と言われた免田栄さんは、死刑囚で再審無罪となった最初の人である。22歳で逮捕され、57歳で無罪を勝ち取るまで、実に34年6ヶ月を獄中で生きたことになる。しかも、死刑囚として、いつ「その日」がやってくるかもしらぬ日々を生きた。この映画は、免田さんが、獄中からひとりの宗教者に宛てて送り続けた千通の手紙を手がかりに、免田さん自身のインタビューで構成した記録映画である。免田さんが手を握って死刑台に見送った人は70人もいた。冤罪を訴えていた人もいた。死刑はあってはならぬ、国家による殺人はあまりにも残酷だと結論を免田さんは得た。免田さんは2020年12月に95歳で亡くなった。

◆各回入れ替え制

12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)	16日(水)	17日(木)	18日(金)
A 11:00	E 11:00	C 11:00	F 11:00	B 11:00	D 11:00	G 11:00
B 13:30	F 13:30	B 13:30	E 14:00	C 13:00	A 14:30	F 13:30
上映終了後トーク						
浴田由紀子 庄司香		D 18:30	A 16:30	D 15:30	B 17:00	E 16:30
C 16:30	G 17:00	上映終了後トーク				
D 19:00	B 19:00	山際永三	桜井昌司	山口薫	佐藤大介	太田昌国

ゲスト紹介: 浴田由紀子=「マコの宝物」著者/庄司香=学習院大教授・アメリカ政治/山際永三=映画監督/桜井昌司=布川事件・冤罪被害者/山口薫=なんみんフォーラム理事・佐藤大介=ジャーナリスト/太田昌国=評論家

協力: 太秦(株) / (株) シクロ / (株) 松竹 / (株) ツイン / (株) トレノバ / ビターズ・エンド / ワナー・ブラザーズ映画

ユロスペース 渋谷区円山町 1-5 (渋谷・文化村前交差点左折) TEL. 03-3461-0211
http://www.eurospace.co.jp/

入場料金

一般1,500円/大学・専門学校1,300円/シニア1,100円/会員1,100円/高校生800円
前売券 5回券4,500円/3回券2,800円/1回券1,000円

ユロスペース劇場HPでは3日前から各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各種クレジットカードのみ、詳しくはユロスペース劇場HPを確認ください)。前売券は3日前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでのご利用はできません。

